令和４年度　宮特研　発達専　第１回研究協議会　分科会記録

第１分科会	コミュニケーションに課題のある児童への支援	
研修内容	13:20	**第１分科会の進め方について（進行）** 前半：講話（４０分） 休憩：１０分 後半：質疑応答（４０分）
講話	13:30	**【講話】** 仙台市教育委員会 特別支援教育課指導主事　丹野　尚　先生 「コミュニケーションに課題のある児童への支援」 ・子どもの発している多様なことばの良き受け手になる ・必要としている支援をすばやく行う ・人とのつながりの中で自己理解を育む ・先行研究、研究論文の紹介　「青年期・成人期の発達障害ある人の自己理解に関する研究」（横浜市）の紹介 ・学齢期における「適切な自己理解」とは ①自分の特性（好き嫌い，得意苦手）がわかる ②過去の経験を適切に振り返ることができる ③振り返ったものを未来に活かすことができる ・さいごに ①子どもと「楽しく談笑する」「同じ話題でやりとりをかさねる」活動を続けていくことが大切 ②関り手が，子どもたちの行動に寄り添う（伴走する）ことから始めていくとよい
	14:10	**休憩**
質疑応答	14:20	**質疑応答**　講話や普段の指導に関する質疑応答が行われ，助言を共有した。 質問　コミュニケーションがうまく取れないこどもの指導について 助言　子どもがうまく話せないときは，教師が「5W1H」をもとに，整理してあげるとよい。「成功体験」の積み重ねが「自己受容」につながる　など
参加者の声 感想等	・小中連携で，指導にあたっていきたい。（＊＊中学校　Ａ先生） ・子どもの「困り感」や「課題」に寄り添い，コミュニケーションをとれるように支援していきたい。（＊＊小学校　Ｂ先生）　など	